

## シックカー！！??

日本自動車工業会は14日、頭痛やめまいが起きる化学物質過敏症「シックハウス症候群」の一因とされるホルムアルデヒドやトルエンなどの揮発性有機化合物（VOC）について、自動車内の濃度を低減する取り組みを始めると発表した。VOCの車内濃度などに一定の基準を設け、07年度から国内で生産、販売する新型乗用車に適用。08年度以降はトラックなど商用車にも取り組みを広げる。自動車業界が一体となってVOC低減に取り組む「シック・カー」対策は世界初という。

VOCは、新築や改装直後の住宅、ビルなどで鼻やのどに刺激を感じる体調不良を引き起こすシックハウス症候群の原因物質。厚生労働省が13物質について室内濃度の指針を定めて、低減活動を進めている。

自動車でもシートやダッシュボード、内張りなどに使用される接着剤などが原因で「不快に感じた」というユーザーの声が自工会に寄せられている。このため、自工会は接着剤や塗料に含まれる溶剤の水性化などを推進して、車内のVOC濃度が厚労省の指針を下回る濃度になるよう業界全体で目指すことにした。

具体的には、「車室内VOC試験方法」を策定。ドア、窓を密閉した車内でホルムアルデヒドの濃度を測定するほか、トルエンはエアコンを作動させた状態での濃度を測定するなど統一の指針を設けた。トラックについては、商用車用の基準を今年度中にまとめて08年度以降からの適用を目指す。

日産自動車はすでに、昨年発売したミニバン「ラフェスタ」で、VOCが発生しにくい吸音材を活用するなど独自の対応に乗り出しているが、「自工会の指針に基づき、車内のVOC低減をほかの車種にも広げていきたい」と話している。また、マツダも車内での「シックハウス症候群」が指摘されたことを受けて、99年から一部車種にホルムアルデヒド除去装置付きフィルターをオプションで販売している。

## インフルエンザ情報

全国のインフルエンザ患者数は6日までの1週間で約7万7000人に達し、2週連続で大幅に増えたことが18日、厚生労働省のまとめで分かった。同省は、さらに流行が拡大する恐れもあるとして、うがいや手洗いなどを呼び掛けている。

厚労省は全国約5000の病院の協力で、週ごとの患者数を調査。1病院当たりの報告数は、本格流行入りした1月17-23日は2・81だったが、同24-30日は7・94、同31日-2月6日は16・46と急増した。

20を超えていたのは、埼玉県の38・66を最高に三重、千葉、神奈川、宮崎、東京、群馬、鹿児島、愛知、佐賀、静岡の11都県。関東、東海、九州地区での流行が目立った。

昨年末からベトナムで再燃した高病原性鳥インフルエンザ。年末年始の約1カ月間に10人以上の死者を出し、1年前の大流行の悪夢が頭をもたげてきた。先週の旧正月にはお祝い用の家禽（かきん）が多くの家庭で食され、感染拡大の懸念も浮上。封じ込めに手を焼く政府は世界保健機関（WHO）や国連食糧農業機関（FAO）に「SOS」を要請、事態は危険水域に入った。

### 忍び寄る脅威

「今のところ、（再燃状況は）昨年のパターンを踏襲している」。2月上旬、ハノイのWHOベトナム事務所。代表のハンス・トロエドソン氏は努めて冷静に「忍び寄る脅威」を口にした。

ベトナムでは昨年1月、鳥インフルエンザの人への感染が確認された。同3月末に終息宣言するまでに、判明しただけで23人が感染、うち16人が死亡し、アジアでの大流行の“震源地”の1つとなった。

この間、家禽への感染は64省・直轄市の約9割で確認され、処分された家禽は4300万羽以上に。経済的にも大きな打撃となり、鳥インフルエンザ対策の重要性を認識させた。

その後は小康状態を保っていたが「ウイルスは環境に定着した」との専門家の指摘を裏付けるように再燃。昨年末から2月上旬までに16人が新たに感染し、うち12人(1月30日現在)が死亡。家禽感染は35省に広がった。

7割がアヒル

感染拡大のパターンが前回と似ている一方、相違点もある。

国際協力機構(JICA)からベトナム国立家畜衛生研究所に派遣されているウイルス学者の乾健二郎氏によると、昨年は感染した家禽の大半がニワトリだったが「今回は約7割がアヒル」。理由は不明だが、ウイルスが変化している可能性があるという。

WHOが最も警戒しているのは、本来は鳥同士で感染する鳥インフルエンザのウイルスが、人から人に簡単に感染する「新型インフルエンザ」へと変異することだ。トロエドソン代表は「変異はいつでも起こり得る」と警告する。

ただ、国際機関や政府、地域社会にとって事実上初めての経験となった昨年の大流行とは異なり、今回は専門家や農家の知識が深まっている。同代表は「人から人への感染は限定的」と指摘、感染拡大阻止への期待をにじませた。

ベトナム農業・地方開発省によるWHOなどへの支援要請を受け、同代表は「国際的な連携はうまくいっている」と語る。しかし、封じ込めのめどが立たないまま感染者が増えていく現状を前に、国際機関や政府がいら立ちを募らせているのも事実だ。

**施工予定:** ニューオオタニ(テイオーリネン) 2/11、京都グランピアホテル 2/23、  
イセエビ料理 中納言 3/1～、早稲田八幡寿司 2/20

## アークフラッシュ最新情報



施工後の経過と様子